

研究ノート

学校体育における武道関連ライフスキル尺度の作成と
妥当性及び信頼性の検討

元 嶋 菜美香^{1)*}, 坂 入 洋 右²⁾

(¹長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科, ²筑波大学 体育系人間総合科学研究科,
*連絡対応著者)

Development on Life skills Scale of Budo and Physical Education
Related and an Examination of Reliability and Validity

Namika MOTOSHIMA^{1)*} and Yosuke SAKAIRI²⁾

(¹Dept. of International Tourism, Faculty of Human and Social Studies, Nagasaki International University, ²Dept. of Graduate School of Comprehensive Human Sciences, Faculty of Health and Sport Science, University of Tsukuba, *Corresponding author)

Abstract

The purpose of this research was to develop the scale about the life skills acquired through Budo, and to examine reliability and validity. In the preliminary research, the preliminary information blank which consists of 38 items with reference to the previous works, the government guidelines for teaching (2008), interview and questionnaire survey for high school physical-education teachers. In main research, the preliminary information blank was replied to the high school student 365 person. "The Budo and the physical education related life skill scale" which consists of 20 items of five factors of leadership, courtesy, emotional strength, positive thinking, and sympathy were created as a result of factor analysis. Moreover, as a result of examining the correlation of the feeling of school life adaptation scale and the Budo and the sport related life skill scale points, a strong correlation ($r=0.81$), sufficient reliability ($\alpha=0.88$) and fixed validity were confirmed.

Key words

Life skill, Budo, Physical education, Psychological scale

要 旨

本研究の目的は、武道を通して獲得されるライフスキルについて測定する尺度を作成し、信頼性と妥当性を検討することであった。予備調査では、中学校学習指導要領（2008）、高校体育教師へのインタビュー及びアンケート調査、先行研究を参照し38項目からなる予備調査用紙を作成した。本調査では、高校生365名を対象に予備調査用紙を配布し回答を求めた。因子分析の結果、「リーダーシップ」、「礼儀作法」、「精神力」、「前向きな思考」、「共感性」の5因子20項目からなる「学校体育における武道関連ライフスキル尺度」を作成した。また、学校生活適応感尺度と学校体育における武道関連ライフスキル尺度得点との相関関係を検討した結果、強い相関関係が確認され（ $r=0.81$ ）、十分な信頼性（ $\alpha=0.88$ ）と一定の妥当性が確認された。

キーワード

ライフスキル、武道、体育授業、心理尺度

I 緒 言

中学校学習指導要領の改訂に伴い、平成24年度から中学校第1・2学年の全ての生徒を対象として武道が必修化となった。「相手を尊重し、勝敗にかかわらず対戦相手に敬意を払う。自分で自分を律する克己の心を理解し、取り組めるようにする」(文部科学省 2008) とあるように、武道特有の伝統的な思考・態度を身につけさせ、武道授業を通して技術に加え心理的スキルを獲得させるように言及されている。

体育授業の持つ影響力の大きさについて、藤谷・細江(1999)は学校教育現場における体育授業が身体感覚や体験を通じて人格に変化をもたらす可能性を示唆している。中学校体育授業における武道必修化の背景には、武道授業を通しての礼儀作法の獲得や相手を尊重する態度の形成への期待があり(北村他 2010)、「生きる力」の獲得または向上に関する武道への期待は大きい(野中 2000)。

「生きる力」に極めて類似する概念として、社会的スキルを内包した心理社会的能力と位置づけられるライフスキルがある(上野 2008; 島本他 2013)。ライフスキルは「日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」と定義され(WHO 1997)、ライフスキルの形成は青少年の健全な人格形成につながると考えられている(JKYB 研究会 1996)。また、「生きる力」と異なり、ライフスキルは対人関係スキル、自己意識、共感性などの明確なスキルから構成されている。今日までにスポーツがライフスキルにさまざまな正の影響を与え、スポーツによるライフスキルの向上効果は顕著であることが確認されており(Danish 1993)、スポーツだけでなく体育授業によるライフスキルの向上が示唆されている(杉山他 2008)。しかし、多くの先行研究は部活動の所属の有無、もしくは主に集団競技を対象として調査を行っており(上野 2008)、武道に焦点を当てたライフスキル研究は乏しい。また、ライフスキルに関する測定尺

度は各国で作成され(Brooks 1984)、国内では上野・中込(1998)の尺度のようにスポーツによるライフスキルの獲得を測定する尺度があるが、武道を測定対象として作成された尺度は見当たらない。現在武道によってどのようなスキルが獲得されるかを測定する尺度が存在しない以上、心理的側面に及ぼす武道の効果を測定することはできない。

そこで本研究では、武道種目のうち中学校部活動にて最も実施されている剣道(日本中学校体育連盟 2012)を中心とした武道に焦点を当て、学校体育を通して獲得されるライフスキルを測定する尺度を作成することを目的とした。予備調査及び本調査を行い、信頼性・妥当性の高い測定尺度を作成することによって、武道を通して獲得されるライフスキルに関する研究の基盤をつくることができると考える。

II 予備調査

1. 目的

『中学校学習指導要領解説 保健体育編』(文部科学省 2008: 以後、中学校学習指導要領と表記する)、先行研究、高校体育教師へのインタビューならびにアンケート調査を行い、武道授業によって獲得されるスキルを選定し、予備調査用紙を作成することを目的とした。本来であれば中学校体育教師を調査対象とすべきであるが、武道必修化以前であり専門的に武道授業を行う教師が少ないことが予想されたため、対象を高校体育教師をとした。

2. 調査項目の選定

(1) 方法

中学校学習指導要領を参照し、武道の授業を通して獲得が期待されているライフスキルに関係する文章を抽出し、ライフスキルに関係するカテゴリーを作成した。武道種目とその他の教科及び種目の効果を比較するため、中学校学習指導要領に記載されている武道以外の体育種目、特別活動など学校生活を通して獲得が期待され

ているライフスキルについて参照した。さらに、既存のライフスキル尺度である Kiss-18 (菊池 1988)、ポジティブ関係コーピング尺度・対人ストレスコーピング尺度 (加藤 2002) の中から武道やスポーツと関連のある項目を選出した。

また、現職教師の武道授業への意識を調査するため、1対1の半構造化面接を行い、武道授業への期待や現状を把握した。高校の体育授業において剣道を中心とした武道を指導している現職の体育教師2名 (男性、年齢54歳、教師歴30年、剣道競技歴44年；女性、年齢54歳、教師歴30年、剣道競技歴39年) を対象とした。調査時期は2010年6月下旬～7月上旬であった。

(2) 結果及び考察

中学校学習指導要領から「中学校学習指導要領が武道に期待するスキル」として、「礼儀、礼節、謙虚な気持ち」、「伝統的な行動様式」、「精神的な安定」、「相手に共感する、配慮する、尊重する能力」の4項目を抽出した。

同様に、中学校学習指導要領の武道以外の体育種目に関する、もしくはすべての体育種目に共通する記載を「中学校学習指導要領がその他の種目に期待するスキル」として抜粋した。挙げられた14項目を「コミュニケーション力」、「挑戦心」、「自尊心、自信」、「積極的な態度」、「公正な態度」、「勝利への執着」、「問題、課題に対処する能力」、「協調性、チームワーク」、「責任感」、「連帯感、一体感」、「ゲーム・試合の楽しさを味わう、競争を楽しむ能力」、「肯定的思考、前向きな思考」、「体を動かすことへの肯定的思考」、「リーダーシップ」とした。中学校学習指導要領を参照した結果、武道とその他の種目では獲得が期待されるスキルが明確に異なっていることが示された。

また、インタビュー調査の結果、「技術面以外で何に重きを置いて剣道を教えましたか」、及び「剣道が現代の子供に与えると思う影響はどのようなものですか」という質問に対して、「礼儀、礼節、謙虚な気持ち」、「伝統的な行動

様式」、「上下関係への配慮」の獲得が期待されているという回答が得られた。「剣道を通して生徒はどのように変化したと思いますか」という質問に対しては、「精神的に安定した」、「集中力がついた」、さらに「良いと思う武道授業はどのような授業ですか」という質問に対して「忍耐力や努力することを学ぶ授業」という回答が得られた。以上の教師への聴取によって得られた内容のうち、中学校学習指導要領に記載のない「上下関係」、「忍耐力」、「努力すること、継続力」、「精神的な安定」、「集中力」の5項目を「高校教師が武道に期待するスキル」とした。予備調査によって得られた計23項目をランダムに配置し、質問用紙を作成した。

3. 現職高校教師への意識調査

(1) 方法

1) 対象：剣道を専門に行う現職高校教師54名 (男性40名・女性5名・無記入9名) を対象とした。対象者の平均年齢は 44.10 ± 8.13 歳、教師歴の平均値は 20.38 ± 8.94 年、競技歴は 34.83 ± 7.50 年であった。

2) 手続き：口頭もしくは書面で調査の趣旨を説明し承諾を得た剣道を専門に指導をおこなっている高校教師54名に対して、郵送もしくは手渡しにて調査用紙への回答を求めた。調査期間は2010年7月～9月であった。

3) 調査内容：予備調査で得られた23項目のスキルに対し、「武道 (剣道) の授業や部活動」もしくは「剣道以外の授業や部活動」を通して、どのくらい獲得させたいと考えているか5段階で評価するよう求め、武道とその他の種目に期待するスキルを比較させた。回答は「5. 非常に思う」～「1. 全く思わない」の5件法で求めた。

4) 統計処理：SPSS ver21 を使用し、対応のあるt検定を行った。

(2) 結果

54名の対象者のうち、高校で体育以外の教科

を専門とする4名、回答に不備のあった5名の計9名のデータを除外し、45名のデータを分析対象とした。

中学校学習指導要領「武道」から抽出した「中学校学習指導要領が武道に期待するスキル」(表1)、「高校教師が武道に期待するスキル」(表2)、中学校学習指導要領の武道以外の体育種目に関する、もしくはすべての体育種目に共通する記載を抽出した「中学校学習指導要領がその他の種目に期待するスキル」(表3)に対して、各項目の平均値と標準偏差を算出し、武道とその他の種目に期待するスキルを比較した結果、高校教師が武道(剣道)とその他の体育種目を通して獲得を期待するスキルが異なることが明らかとなった。

高校体育教師による評価の結果として、「責任感」($t(44)=2.67, p<0.05$)で5%水準、「自尊心、自信」($t(44)=3.15, p<0.01$)、「公正な態度」($t(44)=2.86, p<0.01$)、「努力すること、

継続力」($t(43)=3.40, p<0.01$)、「相手に共感する、配慮する、尊重する能力」($t(44)=3.39, p<0.01$)で1%水準、「上下関係」($t(44)=4.33, p<0.001$)、「精神力、精神的な強さ」($t(44)=4.40, p<0.001$)、「礼儀、礼節、謙虚な気持ち」($t(44)=7.97, p<0.001$)、「忍耐力」($t(44)=5.35, p<0.001$)、「伝統的な行動様式」($t(44)=10.26, p<0.001$)、「集中力」($t(44)=3.63, p<0.001$)において、0.1%水準でその他の種目よりも武道(剣道)が有意に高い値を示した。一方、「コミュニケーション力」($t(42)=2.87, p<0.01$)、「ゲーム・試合の楽しさを味わう、競争を楽しむ能力」($t(43)=4.80, p<0.001$)、「体を動かすことへの肯定的思考」($t(44)=7.38, p<0.001$)においては剣道のほうが有意に低い値であった。

調査結果から0.1%水準で有意に剣道に効果があると認識された「上下関係」、「精神力、精神的な強さ」、「礼儀、礼節、謙虚な気持ち」、「集中力」と中学校学習指導要領に記述されている

表1 「中学校学習指導要領が武道に期待するスキル」の基本統計量とt検定の結果

項目名	学習指導要領が武道に求めるスキル				
	剣道		その他の種目		t値
	M	SD	M	SD	
礼儀、礼節、謙虚な気持ち	4.80	0.46	3.56	1.01	7.97***
精神力、精神的な強さ	4.40	0.69	3.62	1.07	4.40***
伝統的な行動様式	4.40	0.65	2.71	1.08	10.26***
相手に共感する、配慮する、尊重する能力	4.13	0.76	3.64	0.91	3.39**

** $p<.01$ *** $p<.001$

表2 「高校教師が武道に期待するスキル」の基本統計量とt検定の結果

項目名	高校教師が武道に期待するスキル				
	剣道		その他の種目		t値
	M	SD	M	SD	
上下関係	3.91	1.04	3.16	1.04	4.33***
忍耐力	4.40	0.72	3.62	1.01	5.35***
努力すること、継続力	4.27	0.69	3.78	0.95	3.40**
集中力	4.40	0.72	3.89	0.80	3.63***
精神的な安定	3.93	0.81	3.73	0.86	1.50

** $p<.01$ *** $p<.001$

「相手に共感する、配慮する、尊重する能力」を武道独自の因子として挙げ、独自の下位項目を作成した(表4)。この時、「忍耐力」は「精神力、精神的な強さ」、「伝統的な行動様式」は「礼儀、礼節、謙虚な気持ち」に類似すると判断し、下位項目として加えた。各因子を「上下関係」、「精神力」、「礼儀作法」、「集中力」、「相

手の尊重」とし、中学生の獲得するライフスキルに最も関係すると推測される「日常生活スキル尺度」(島本・石井 2006)に加え、武道を中心とした学校体育によって獲得が期待されるライフスキルを多面的に測るための38項目からなる予備調査用紙を作成した。

表3 「中学校学習指導要領がその他の種目に期待するスキル」の基本統計量とt検定の結果

学習指導要領がその他の種目に期待するスキル					
項目名	剣道		その他の種目		t値
	M	SD	M	SD	
コミュニケーション力	3.80	0.82	4.16	0.72	-2.87**
挑戦心	4.18	0.78	3.98	0.81	1.50
自尊心、自信	4.04	0.74	3.67	0.80	3.15**
積極的な態度	4.13	0.76	3.91	0.85	1.65
公正な態度	4.24	0.68	3.84	0.93	2.86**
勝利への執着	3.89	0.75	3.69	0.87	1.35
問題、課題に対処する能力	3.80	0.79	3.69	0.95	0.84
協調性、チームワーク	4.16	0.77	4.18	0.75	-0.17
責任感	4.20	0.76	3.91	0.85	2.67*
連帯感、一体感	4.00	0.71	4.04	0.77	-0.36
ゲーム・試合の楽しさを味わう、競争を楽しむ能力	3.78	0.74	4.39	0.65	-4.80***
肯定的思考、前向きな思考	3.71	0.84	3.80	0.87	-0.81
体を動かすことへの肯定的思考	3.49	0.82	4.31	0.70	-7.38***
リーダーシップ	3.67	0.83	3.62	0.81	0.39

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

表4 独自に加えた武道特有の因子及び項目

因子	項目
上下関係	<ul style="list-style-type: none"> ・上下関係を意識して気配りをすることができる ・性別や年齢をあまり意識せず相手と話をすることができる
精神力	<ul style="list-style-type: none"> ・最後まであきらめずやり抜くことができる ・意見が違う人とも粘り強く話をすることができる ・目標達成のためにコツコツと努力をすることができる ・苦しい場面でも自分に負けず努力できる
礼儀作法	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの仕方など日常の礼儀作法に気を配っている ・日常生活で時間を守るように意識して行動している ・マナーやルールを守って行動している
集中力	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して物事に取り組むことができる
相手の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情・気持ちを友人に上手に表現できる ・相手の気持ちを理解しようと意識して会話をしている ・相手の気持ちを推察して行動することが多い ・相手の感情に配慮して話すことができる

4. 考 察

予備調査において、現職の高校体育教師への調査から教師が武道に対して期待するスキルを、また中学校学習指導要領の記述内容の抽出から適切な武道教育によって獲得することが期待されるスキルを示した。教育現場で実際に武道に携わる教師の経験に基づいたアンケート調査及び全国的な武道授業の指針である指導要領を調査及び分析の対象としたことで、武道によって獲得が期待される多面的なスキルを挙げる事ができたと考える。

剣道を専門とする教師は、これまでの指導経験に基づき「礼儀作法」や「伝統的な行動様式」などの武道の伝統的な作法、「精神力」、「集中力」、「忍耐力」などの精神的強さ、「相手に共感する、配慮する、尊重する能力」といった心理的スキルの獲得を期待していた。このうち、「相手に共感する」スキルは中学校学習指導要領の「武道」部分に記載があるにも関わらず、これまで武道授業による共感性の向上に関する研究はなく、武道の新たな心理的効果の可能性として今後研究が必要であると考えられる。

Ⅲ. 本 調 査

1. 目 的

予備調査で選定した38項目を用いて調査及び因子分析を行い、武道を中心とした学校体育を通して獲得されるライフスキルを多面的に測定する尺度を作成し、信頼性及び妥当性を検討することを目的とした。

2. 因子分析・信頼性の検討

(1) 方 法

1) 対象：高校1～3年生365名（平均年齢16.72±0.54歳、男子219名・女子145名）を対象のうち、無効回答を除いた357名を対象とした。

2) 手続き：2010年11月に対象高校に集団調査を依頼し、校長及び担当学年の教師の許可を得たのち調査用紙を郵送した。各クラスの担任がホームルームや放課後に調査内容を説明し、

回答させた。

3) 調査用紙：予備調査にて選定された38項目が普段の生活にどの程度当てはまるか、「5. あてはまる」～「1. あてはまらない」の5件法で回答を求めた。

4) 統計処理：SPSS ver16 を使用し、因子分析（主因子法・Promax 回転）を行った。

(2) 結果及び考察

教育の現場で簡便に使用することが可能な調査用紙作成のため、項目の削減を試みた。削除の際、どの因子にも属さない、因子の項目数が多い、因子の項目の中で低い因子負荷量を示す、生徒・教師に理解が難しく学校体育に関係が薄いという条件から除外する項目を検討し、20項目を選択した。因子数を5に指定して再度因子分析を行った結果、全ての項目において因子負荷量が0.40以上を示した（表5）。以上の結果、5因子20項目からなる武道を中心とした学校体育を通して獲得が期待されるライフスキルを多面的に測る尺度を作成し、「学校体育における武道関連ライフスキル尺度」と命名した。項目の内容から第1因子を「リーダーシップ」、第2因子を「礼儀作法」、第3因子を「精神力」、第4因子を「前向きな思考」、第5因子を「共感性」とした。

最終的な因子分析の結果作成された「学校体育における武道関連ライフスキル尺度」の α 係数を算出した結果、尺度全体の信頼性を表す α 係数が0.8以上（ $\alpha=0.88$ ）であることや、各因子の α 係数が0.7以上であることから本尺度の信頼性が高いことが示された（表6）。各因子における項目数を統一し、項目数を20項目と少なくしたことから教育現場において簡易に使用・分析でき、生徒のライフスキルの獲得状況を定期的に確認することへの活用が期待できる。

3. 妥当性の検討

(1) 方 法

1) 対象：高校2年生341名（平均年齢16.72

表5 学校体育における武道関連ライフスキル尺度の因子行列 (promax 回転、N=357)

No	項目	M	SD	因子負荷量				
				因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
〈因子1：リーダーシップ〉								
6	集団で行動するときに先頭に立ってみんなを引っ張っていくことができる	3.15	1.05	.95	-.11	.03	.01	-.06
7	自分が行動を起こすことによって周りの人を動かすことができる	3.05	1.04	.90	-.04	.07	-.07	.01
5	話し合いのときにみんなの意見を1つにまとめることができる	3.20	0.99	.88	.04	-.08	-.02	.05
8	性別や年齢をあまり意識せず相手と話をすることができる	3.35	1.21	.47	-.03	.05	.16	.05
〈因子2：礼儀〉								
32	マナーやルールを守って行動している	3.87	0.92	-.10	.86	.07	-.02	.00
28	年上の人に対しては敬語を使うことができる	4.20	0.89	-.08	.81	-.17	-.01	.06
31	日常生活で時間を守るように意識して行動している	3.85	0.98	-.00	.73	.20	-.08	-.09
30	あいさつの仕方など日常の礼儀作法に気を配っている	3.80	0.95	.09	.73	.09	-.03	-.03
〈因子3：精神力〉								
38	目標達成のためにコツコツと努力をすることができる	3.40	1.07	.07	-.12	.84	.04	.02
37	集中して物事に取り組むことができる	3.59	1.02	-.20	.14	.75	.07	.03
11	やるべきことをてきばきと片づけることができる	3.20	1.07	.30	.05	.60	-.10	-.08
34	苦しい場面でも自分に負けず努力できる	3.33	1.07	.00	.22	.59	.14	.11
〈因子4：前向きな思考〉								
24	いやなことがあっても、いつまでもくよくよと考えない	3.27	1.20	-.08	-.15	.10	.83	.06
25	困ったときでも「なんとかかなるだろう」と楽観的に考えることができる	3.59	1.19	-.15	-.07	-.01	.79	.10
23	自分の言動に対して自信をもっている	3.03	1.02	.24	.09	-.00	.65	-.14
21	自分のことが好きである	3.05	1.06	.18	.06	.01	.62	-.10
〈因子5：共感性〉								
1	困ったときに友人らに気軽に相談することができる	3.93	1.06	-.07	.07	-.05	.06	.87
3	どんな内容のことでも、友人らと本音で話し合うことができる	3.73	1.04	.01	-.04	.03	.03	.87
14	悲しくて泣いている人を見ると、自分も悲しい気持ちになる	3.60	1.09	.01	-.21	.38	-.19	.55
4	自分の感情・気持ちを友人に上手に表現できる	3.42	1.03	.37	.23	-.20	.04	.54
因子抽出法: 主因子法				計20項目		累積寄与率64%		

表6 学校体育における武道関連ライフスキル尺度の信頼性分析結果

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	尺度全体
α 係数 ($\alpha =$)	0.84	0.80	0.78	0.74	0.75	0.88

±0.46歳、男子197名・女子142名)のうち、無効回答を除いた339名を対象とした。

2) 手続き: 先行研究(青木 2005)を参照し、ライフスキルとの関連が高いと推測される学校生活適応感尺度(栗谷・本間 2009)のうち質問内容が本調査と関係が薄いと推測された「私には、まるで友達のように親しみを感じる先生がこの学校にはいる」などの教師関係因子の3項目を除いた30項目を使用し、対象者の学校生活適応感尺度と学校体育における武道関連ライフスキル尺度の得点の相関関係を算出した。

(2) 結果及び考察

学校体育における武道関連ライフスキル尺度の各因子ならびに5因子合計の平均値と学校生活適応感尺度得点の相関関係を算出したところ、高い相関が示された($r=0.81$)。この結果、ライフスキルの獲得程度が高い生徒ほど学校適応感が高いといえ、獲得されたライフスキルが学校を中心とした日常生活に応用されている可能性を示唆した。これは先行研究(青木 2005)と同様の結果であり、尺度の併存的妥当性が確認された。

IV. 総合考察

本研究では、中学校学習指導要領及び現職体育教師が武道に期待するライフスキルを明らかにし、多面的に測定する心理尺度を作成したが、実際に武道を経験することによってスキルが獲得されるかについては確認できていない。今後、本尺度を使用し武道系の部活動に所属する生徒のライフスキルの特徴や武道の経験年数とライフスキルの獲得程度との関係を明らかにするなどの調査を行うことで、武道が生徒及び学生のライフスキルに与える影響や関係する要因を検討する必要がある。また、本調査尺度を用いて武道授業の心理的効果を分析することで、教師や中学校学習指導要領が期待するような心理的スキルを生徒が実際に獲得できているかを検証することも可能である。信頼性及び妥当性が確認

された尺度を用いて心理的効果を調査することによって、教師行動やプログラム内容、その他の体育種目との心理的影響の比較について検討することが可能となり、有効性のエビデンスに基づく授業の提案を行うことができると考える。

本研究で武道によって獲得が期待されるスキルとして挙げられた「共感性」については、これまで武道の心理的効果として分析の対象とされておらず、現段階では武道のどのような運動特性と関係しているかなどは明らかにできていない。今後、武道が体験者の共感性にもたらす影響について研究を進めていくことで、武道の有する新たな心理的効果を提唱することが可能となるだろう。

武道が必修化された背景には、わが国の伝統的な武道の修行には「生きる力」を育成する教育法として現代教育に欠けている様々の要素も持っているという確信があった(中林 1994)。現在、武道の有する教育的意義が明確に示されていない以上、武道必修化に対する保護者・教師・世論が抱く疑問や不安を解決することはできない。信頼性・妥当性の確認された測定尺度を作成することは、効果検証のための土台作りであり、今後実際の武道授業が生徒のライフスキルにもたらす影響について更なる研究を行うことで、武道による人格形成への効果を検証することが可能となるだろう。

V. 参考文献

- 青木邦男 (2005) 「高校運動部員の社会的スキルとそれに関係する要因」『国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要』第5号, 25-34頁.
- Brooks, D. k (1984) 'A life-skills taxonomy: Defining elements of effective functioning through the use of the Delphi technique.' University of Georgia, Athens.
- Danish, S. J., Petitpas, A. J. and Hale, B. D. (1993) 'Life development intervention for athletes, Life skills through sports.' *The Counseling psychologist* 21(3), PP.352-385.
- 藤谷かおる, 細江文利 (1999) 「共感意識の変容に関する研究: 共生関係を生む共感意識の形成を目指して」『スポーツ教育学研究』第19巻第2号,

- 131-141頁.
- JKYB 研究会編 (1996)『健康教育とライフスキル
学習：理論と方法』明治図書.
- 加藤司 (2006)「ポジティブ関係コーピングと精神的健康：ポジティブ関係コーピング尺度の作成」『東洋大学社会学部紀要』第44巻第1号, 85-100頁.
- 菊池章夫 (1988)『思いやりを科学する：向社会的行動の心理とスキル』川島書店.
- 北村尚浩, 川西正志, 濱田初幸, 前阪茂樹 (2010)「中学校における武道必修化に関するアンケート調査 調査報告書」鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター
http://people.nifs-k.ac.jp/taka_kita/survey/report2010.pdf (2014年1月10日閲覧)
- 栗谷初子, 本間友巳 (2009)「思春期の自己肯定感のあり方に影響を及ぼす要因について：学校生活適応感、生活習慣との関係を中心に」『京都教育大学教育実践研究紀要』第10巻, 193-202頁.
- 文部科学省 (2008)『中学校学習指導要領解説 保健体育編』.
- 中林信二 (1994)『武道のすすめ』鳥津書房.
- 日本中学校体育連盟 (2012)「平成25年度加盟校調査集計」
<http://www18.ocn.ne.jp/~njpa/kamei.html> (2014年1月10日閲覧)
- 野中日文 (2000)『武道 日本人の行動学』創言社.
- 島本好平, 東海林祐子, 村上貴聡, 石井源信 (2013)「アスリートに求められるライフスキルの評価：大学生アスリートを対象とした尺度開発」『スポーツ心理学研究』第40巻第1号, 13-31頁.
- 島本好平, 石井源信 (2006)「大学生における日常生活スキル尺度の開発」『教育心理学研究』第54巻, 211-221頁.
- 杉山佳生, 渋谷崇行, 西田保, 伊藤豊彦, 佐々木万丈, 磯貝浩久 (2008)「学校体育授業を通じたライフスキル教育の現状と展望」『健康科学』第30巻, 1-9頁.
- 上野耕平 (2008)「スポーツ活動への参加を通じたライフスキルの獲得に関する研究展望」『鳥取大学生生涯教育総合センター研究紀要』第4巻, 65-82頁.
- 上野耕平, 中込四郎 (1998)「運動部活動への参加による生徒のライフスキル獲得に関する研究」『体育学研究』第43巻第1号, 33-42頁.
- WHO (編) 川畑徹朗, 西岡伸紀, 高石昌弘, 石川哲也監訳 (1997)『WHO・ライフスキル教育プログラム』大修館書店.